

平成24年1月

= 発行 =

秋田県生涯学習センター  
〒010-0955 秋田市山王中島町1-1  
TEL : 018-865-1171  
FAX : 018-824-1799  
E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp  
編集担当：社会教育アドバイザー

江戸時代の農学者宮崎安貞は、「農業全書」に柿の木の効用を説きながら家の周りに柿の木を植えることを奨励しました。「夏は木陰をつくり、秋にはもみじ葉が美しい。鳥が巣を作ることもなく、虫の付くこともない。柿の実はいい菓子になり落ち葉はいい肥料になる。木の寿命が長く毎年豊かな恵みを与えてくれる」と述べています。この言葉に出合ったとき、干し柿、羊羹、柿の葉寿司、柿の葉茶、お正月の酢の物などを連想しました。柿の木も、今は雪の中です。復興に向けた平成24年を迎えました。「幸」への願いがますます募ります。



◎ ホール展示に見入る人々の笑顔と笑顔 平成23年12月1日～20日



秋田県生涯学習センターの展示ホールに、サービス「ケアポートかたりべ・くらぶ」利用者の作品が展示されました。絵、ジグソーパズル、折り紙、手芸などの作品が並び、温かな雰囲気になりました。製作者本人や家族、知り合いの方々などが訪れ、笑顔と明るい会話が飛び交いました。お世話を受けて笑顔、お世話して笑顔！感激の場面でした。

※お降り・・・元旦に降る雨のこと

お降りや一年の計巡らせる  
初恋の君の面影もろとも啜りけり  
根深汁訛言葉もろとも啜りけり

武藤 素魚



◎ 「こどものえき」をご存じですか？

子育て家族が外出しやすい環境を整えるために、「こどものえき」が設置されるようになりました。「こどものえき」には、おむつ交換台や授乳スペース、ベビーキープ（トイレなどに設置される子ども安全イス）などがあります。

「こどものえき」は、全県の13市町村にあり、公共の施設、ショッピングセンターなど77か所（平成23年11月現在）に設置されました。

授乳・おむつ替えOK!



秋田県生涯学習センターでも、2階に右の写真のような授乳・おむつ替えのできる部屋が設置されました。入り口に、右上のようなマークを貼っています。授乳やおむつ替えがゆっくりできますので、是非ご利用ください。



「美の国カレッジ」あきた学特別公開講座  
『発見！秋田の文学』終了

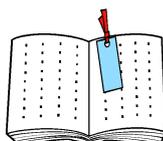
平成23年11月10日～12月21日

秋田の文学を学ぶ講座が、2期にわたって開催されました。講師は、秋田県生涯学習センター 北条常久（美の国カレッジシニアコーディネーター）でした。講師の幅広い識見、奥深い研究に裏付けされた多面的な切り口からの講話で、受講生に大変好評でした。受講者は延べ362名でした。



＜秋田の文学者が描く秋田＞

- ① 石川達三『蒼茫』
- ② 伊藤永之介『消える湖』
- ③ 石坂洋次郎『山と川のある町』



＜小林多喜二の文学＞

- ① 多喜二と秋田
- ② 多喜二と小樽
- ③ 多喜二と『蟹工船』

「ヤッホーの会公開学習会」に参加して

テーマ 災害を通じて日常生活を考える

期日 平成23年12月18日（日）

場所 秋田県生涯学習センター



秋田県避難者交流センター開設！

12月14日、秋田県生涯学習センター内に東日本大震災に伴う県内への避難者の交流センターが開設されました。室内には、パソコン2台、ミーティング用テーブル、福島県の地元紙や子ども向けのコーナー（遊び道具や絵本など有り）が準備されていました。お部屋を拝見し、被災者の方々の安らぎの場、情報交換の場、子どもの遊び場になると感じました。

お邪魔したときは、秋田県のスタッフと福島県のスタッフがいました。今後、避難者支援の拠点として広く活用されていくことと思われます。



生涯学習ボランティアグループ「ヤッホーの会」は、定例会や学習会を開催するなど、秋田県生涯学習センターを拠点に、ボランティア活動を積極的に進めております。

12月18日は、「人と人のつながりを考える」の2回目で「災害（危機）を通して日常生活を考える」がテーマでした。アドバイザーは、秋田大学医学部准教授の佐々木久長先生でした。

3月11日の東日本大震災前後で自分の考え方や感じ方、価値観などに変化（気付き）があったかどうかについて意見交換をおこないました。様々な経験を経てきた参加者が、考えていることを互いに出し合い、じっくり語り合いました。話し合いの中の一部を紹介します。

- ・ 経済を優先して歩んできた日本だったが、未曾有の原発事故に遭遇して考えさせられることが多かった。普段は問題にならないことも、災害（危機）によって本質が問われることになった。原発を継続させていくか他の価値感に基づいて別の方法を模索するか考えなければならない。
- ・ 人は、実際に人とかかわることを通して、うれしさや安心感を感じる。この体験を子どもや若者に伝えていかなければならない。これは、少子化対策に通じることである。
- ・ テレビの国会中継を見て、がっかりする。経済は大国だが、政治は三流だと言われている。いい案だったら、党を超えて一緒にやればいいのに、・・・。
- ・ 今は、戦中・戦後と同じ。命をかけて国を守り、若い人を守るために、年寄りも賢くならないといけない。ただ生きているのではなく、若い世代に伝えなければならない義務がある。
- ・ まとめ買いする地域より毎日買い物をする地域の方が自殺者が少ない。日本の若者20～30代の死因の第一が自殺である。この国に未来はあるのだろうか。高齢者、中高年、若者の各年齢層がそれぞれの立場から考えていく必要である。